



学園だより No.34

■発行人・発行所／学校法人 北海道カトリック学園 理事長 勝谷 太治
札幌市中央区北1条東6丁目10カトリック札幌司教館内

授業で学生達に絵本の読み方の見本を見せる時に必ず使用する絵本があります。「きつねのおきやくさま(あまんきみこ)・作 二俣英五郎・絵」という絵本です。おなかをすかせたきつねが瘦せたひよこ、あひる、うさぎに出会い、太らせて食べようと考案家に連れて帰ります。3人がきつねのことを「優しい」「親切」「神様みたい」と話しているのを聞き、きつねの気持ちが次第に変化していきます。ある日、山からおおかみが下りてきました。きつねは3人を守ろうと必死におおかみと戦いますが、その夜、微笑んで死んでしまいます。私はこの絵本の世界観が好きで、学生達に読み聞かせしているのですが、同時にこの絵本には、幼稚園教諭として働いていた時の印象深い思い出があります。

3 歳児のKちゃんは、生活のテンポがゆっくりしていて、どちらかと言えば、のんびりゆつたりと生活を楽しんでいる印象のある子どもで、こだわりのもって活動に取り組んでいる姿があまり見られないこと

が少し気になっていました。そんなある日のことです。Kちゃんが「きつねのおきやくさま」を読んで頼んできました。そこで私はKちゃんの隣に座り、その絵本を読んであげました。Kちゃんは私の声に耳を傾けながら、絵本の絵を真

が少し気になっていました。また同じように読み聞かせをしてみました。そんな日が1週間ほど続いたでしょうか。「きつねのおきやくさま」を読むことが私とKちゃんの日課のようにになりました。いつの間にか私もその時間に何か安らぎのようなものを感じていました。Kちゃんが絵本の何に惹かれていたのかを知りたくて、読み聞かせの際にKちゃんの表情に注目してみると、実に豊かな表情で絵本の世界に入り込んでいるのがわかりました。その表情の変化が、私自身が物語に感じる感情と全く同じものだという事に気付き、毎日のように読んであげていた時間に安らぎを感じた理由がそこにあるように思いました。

絵本は子どもに色々なことを教えてくれます。しかしながら子どもが読み聞かせが好きになる理由はそれだけではなく、読み手との間に感情の共有があることが大きいように感じます。そしてそれは子どもの楽しみだけでなく、大人の楽しみにもなりえることをKちゃんに私に教えてくれました。

絵本を通した 読み手と聞き手の 感情の共有



藤女子大学人間生活学部保育学科
教授 高橋 真由美

剣なまなざしで見えています。読み終わつたあとは、特に何かを言うこともなく、絵本を棚に戻しました。ところが翌日、登園直後にまたその絵本を「読んで」と持ってきたのです。昨日読んだばかりだけど...と思いつつ、Kちゃんのそのような姿が珍しかったこともあり、また同じように読み聞かせをしてみました。そんな日が1週間ほど続いたでしょうか。「きつねのおきやくさま」を読むことが私とKちゃんの日課のようにになりました。いつの間にか私もその時間に何か安らぎのようなものを感じていました。Kちゃんが絵本の何に惹かれていたのかを知りたくて、読み聞かせの際にKちゃんの表情に注目してみると、実に豊かな表情で絵本の世界に入り込んでいるのがわかりました。その表情の変化が、私自身が物語に感じる感情と全く同じものだという事に気付き、毎日のように読んであげていた時間に安らぎを感じた理由がそこにあるように思いました。

クリスマスの起源

理事長 勝谷 太治

世間ではクリスマス商戦がたけなわになつてきています。しかし、街で見かけるクリスマスにはサンタさんはいても、キリストの「キ」の字もありません。宗教色は見事に払拭されています。中には、祝っているクリスマスがキリストの誕生のお祝いだと知らない人もいます。

また、子どもたちに絶大な人気のサンタクロース、本来クリスマスとは関係ないのですが、昔からいろいろな姿でその存在は知られていました。現在の赤い服を着たサンタクロースはアメリカのコカコーラ社が作り出したもので、実は本来のサンタさんとは全く違うイメージキャラクターなのです。貧しい家の子どもたちを助けた4世紀の教会の聖人、聖ニコラス(サンタ・ニコラス)司教(司教の正装姿は赤)がモデルであると言われています。彼が寄付したお金が庭に吊るしてあった靴下に入れてあったという逸話から、プレゼント入れに「靴下」が用いられるようになりました。

このクリスマス、実はイエス・キリストが実際に生まれた日ではありません。本当はいつ生まれたのか誰も知らないのです。では何故12月25日にクリスマスが祝われるようになったのでしょうか。キリストの教会組織や典礼は紀元後1世紀にはすでに確立しつづきました。しかし、ク

リスマスのようなキリストの誕生を祝う典礼はまだ存在せず、ただキリストの復活を祝う復活祭のみが盛大に祝われていたのです。キリストの誕生を祝う最初の典礼はキリスト教がローマ帝国内において多数になつてきた4世紀頃になって現れてきました。その目的は当時12月の冬至の頃に祝われ一般的だったキリスト教以前の宗教、ミトラ教の祝いをキリスト教化することだったようです。これは太陽神を祭る祝いで、太陽の力が弱まり世界の闇の支配が最も力を持った時、再び太陽の力を取り戻し、光が世界に満ち始めることを祝つたものです。キリストは「世の光」、「正義の太陽」などと称せられます。キリストに置き換えたわけですが、キリストに置き換えたわけですが、これが闇の世界に光がもたらされたことを意味するキリストの誕生として祝われるようになったクリスマス起源です。ChristmasはChrist(キリスト)のMass(ミサ典礼)という意味で、西暦354年にそのミサを12月25日に祝うように決められました。そして、クリスマスまでの4回の日曜日の期間を待降節(アドベント)といつて、キリストの誕生を準備する期間として定められました。今年のアドベントは12月1日の日曜日から始まっています。各幼稚園ではクリスマスに向けていろいろな取り組みが行なわれています。



育まれた笑顔は、なによりの宝物

三笠藤幼稚園 保護者 安西 明日香

「バイバイ」と乗ってきた帰りのバスが見えなくなるまで手を振って見送る次男を見ていつも嬉しくなります。親子クラス、満2歳児クラスを経て、今年の4月に年少として入園した次男。満2歳児クラスの時は年長だった兄と一緒に楽しく登園していました。環境の変化やいつものパターンが崩れると不安が強まる次男は、兄が居ないことを受け入れられるかなと心配でしたが、先生方のサポートやお友達のおかげで少しずつ慣れていくことが出来ました。関わりに少しコツの必要な次男。親子クラスの時から先生方にはたくさん相談に乗ってもらい、一緒に歩んできていただきました。年少になった次男の歩みに合わせて、四季折々の多彩な行事や園活動を通して、成長の一步先に繋がる関りを無理なく体験させてくれることに、日々感謝しており

ます。どんな時でも「大丈夫」と次男を信じてくださった、先生方のやさしさと温かい心に包まれて育まれた次男の笑顔は、なによりの宝物です。来年3月三笠藤幼稚園は閉園します。「キリスト教の精神に基づいて、幼児一人一人を大切に、それぞれの発達段階に応じた手助けをすることにより、心身の豊かな人格形成と自立を目指します。」という教育理念と特色を実現してくださった、藤幼稚園の全ての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。残りわずかな時間を大切にしていくと共に、蒔いてくださった「豊かな心」の種を、子ども達もそして私も育んで行きたいと思ひます。



第17回 幼児教育研究会を終えて

広島天使幼稚園 園長 田中 雅子



10月5日(土) 広島天使幼稚園で行われた公開保育は、できる限り普段通りの姿をみて頂き、たかつたのですが、100人以上の方が来園され、子どもたちは少々緊張気味でした。

研究主題を「遊びを通して『生きる力』を育む」とし、毎日生活する中で、子どもが自ら考え決断し行動する力と自立心を意識してきました。当日公開した、てんしフェスティバル(お部屋さんごっこ)の準備は、子ども達の自由な発想とやりたいたいという気持ちを尊重して、教職員も子どもと一緒に楽しんできました。その様子と園内の作品や飾りなどの環境をご覧頂き、皆さまにとつて保育のヒントになれば幸いです。

その後、前園長でありました勝谷理事長の素敵なお話や伴奏による聖歌・祈りが教会に心地よく響き渡る開会式、次に2023年完成の「ボールパー

ク」の紹介と「幼稚園教員としての防災」をテーマに北広島市職員の講演がありました。特に防災については、命を守る責任を改めて自覚する機会になりました。

最後に、感謝の祈りの中、来年、認定こども園倶知安藤幼稚園で、皆様と一緒に会えることを楽しみにしながら閉会となりました。

この研究会は、教職員全員の参加や遠方園の事情などの困難もありますが、それ以上に深い意義があると思います。また、皆様から頂いたアンケートは私たちの励みとなり、大変良い学びの場となりました。ありがとうございました。



笑顔いっぱい

さんぽみち

大麻藤幼稚園

じゃがいも成長日記 ～収穫際に向けて～

教諭 谷内 木乃花

大麻藤幼稚園では、毎年園の畑で野菜を育て収穫し、感謝祭を行っています。例年、全園児で芋を植え、その他に各クラスで決めた野菜を育てていましたが、今年はこちらへ移行する工事の関係で、畑を使うことが出来ませんでした。今年も野菜を育てるのは厳しいかな...と思っていた所、バスの運転手さんが北広島にある畑を貸してくれることに。バスに乗り畑に行き、芋植えをすることが出来ました。ですが、畑の世話や成長を見守ることが出来ない為、どうしたら子ども達が芋の成長を楽しみに出来るか先生たちで話し合いました。そこで、畑の写真を載せた「じゃがいも成長日記」を掲示したり、園の花壇にも少し芋を植え、成長を比べたりして過ごし、近くに畑は無くとも成長を知り期待を持つことが出来ました。そして8月には畑で芋掘りを楽しむことも出来ました。各クラスの野菜はプランターで育てました。沢山野菜が実ったクラスもあれば、育てるのが難しかったクラスもあり、栄養ある畑の有難さについて考える機会にもなりました。環境が整わない中で、子どもが野菜の成長に興味を持ち、神様へ感謝する気持ちを持つ為にどうしたら良いか考え、収穫まで皆で楽しむことが出来て良い活動になったのではないかと思います。



広島天使幼稚園

手書きのメッセージ交換

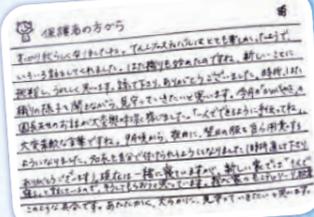
教諭 須川 あゆみ

憧れの幼稚園教諭になってから20年以上が経ち、今までに沢山の園児と保護者の方との素敵な出会いがありました。勤め始めた頃は、毎日の生活に追われ、心に全く余裕がなく、保護者からも厳しい指摘を受ける事もありました。しかし、今となってはそれがあったからこそ、先生としてどうあるべきか自分と向き合う事が出来たのだと思います。

当園では月に一度、出席カードを通して保護者の方と子どもの様子などを互いに書き、交換しています。このメッセージ交換が、ご家庭や園での様子を知る良いきっかけとなり、信頼関係を築く手段の一つとなっています。「天使幼稚園に入園させて良かった」「子どもの成長に驚いている」「先生方の笑顔に救われた」など、たくさんの温かい言葉ひとつひとつが、私たち職員

の頑張る原動力となっているのです。

これからも園とご家庭の連携を大切にしながら、たくさんの出会いに感謝し、神様のお恵みの元、子どもの健やかな成長や幸せを願い、日々保育に努めていきたいと思ひます。



花川マリア認定こども園

“マリア様・イエス様”と共に

保育教諭 木村 佳代

花川マリア幼稚園が認定こども園として開園してから、8か月が経ちました。園庭は無事に芝が生え緑に色づき、周りの沢山の木々は紅葉が始まり、四季の移り変わりを感じさせてくれます。

以前の園舎との違いは、玄関ホールに聖母子像があることです。幼児クラスの子供達は、登園時には「マリア様、イエス様おはようございます」降園時には「マリア様、イエス様さようなら」外遊びへ行く時には「いってきます!」帰ってきた時には「ただいま!」と語りかける様子があります。そして、マリア様には子ども達がお仕事で作ったひも通しの首飾りが掛けられ、周りには子ども達が拾ってきたどんぶりや落ち葉のプレゼントでいっぱいです。新園舎になり、このような子ども達の姿を見る度に“マリア様・イエス様”をより身近に感じ、愛情や感謝の気持ちが育っていることを実感し嬉しく思う毎日です。まだ小さな乳児クラスの子供達も、入園当初から毎日保育

教諭と共に“マリア様・イエス様”に語り掛け、お祈りをしていくうちに、保育教諭の声掛けが無くともその小さな手を合わせるようになりました。

子どもたちが様々な経験を重ねて、成長をしていくこども園。いつも“マリア様・イエス様”が寄り添い、見守って下さることに感謝し、ここで育つ子ども達が自分以外の周りの人々のことを思いやる心が育まれていこう、私も共に過ごしていきたいと思ひます。



苫小牧聖母幼稚園

中庭の梨の木

園長 青山 邦子

幼稚園の中庭には、梨の木が2本あります。春には白い花が満開に咲き、花が散ると小さな実がつき、夏から秋に少しずつ大きくなっていきます。風が強いと実がたくさん落ちてしまう年もあります。おいしく熟してくると鳥にねらわれてしまいます。子ども達はその成長を毎日見つめながら過ごします。さあ収穫の時期です。今年は、例年よりも大きな実がたわわに実りました。梨もぎは年長さんのお仕事です。木に登って取る子、背伸びをして取る子、たくさん収穫出来ました。収穫した梨は、園児みんなで昼食に食べます。お店で売っている梨ほど甘みは強くありませんが、素朴な味わいが自分たちで収穫した喜びと一しょになって特別なものになるのです。季節を感じ、自然の成り立ちを知り、感謝の思いを育てます。♪ありがとう かみさま ありがとう たくさんのおめぐみをありがとうかみさま ありがとう わたしたちのため♪お祈りの歌が聞こえてきます。たくさんの恵みに気づき、たくさんのありがとうが言葉になる。幼稚園の小さな中庭の梨の木と共に、目には見えないけれど子ども達の成長が美しくたわわに実っています。

